

CODE 海外災害援助市民センター  
2018年度 事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

2017年度総会で承認された以下の継続プロジェクトと終了予定プロジェクトに分類したが、現地の状況を踏まえた上、2017年度に終了できずに2018年度に持越し、終了する計画となった。

2017年度事業計画

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2022年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008年	2018年度末 ⇒延長の可能性あり
	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011年	2020年度末
	4	ネパール地震救援プロジェクト	2015年	2020年度末
●2018年度終了予定プロジェクト	5	ハイチ地震救援プロジェクト	2010年	2017年度末 ⇒2018年度末終了
	6	青海省地震救援プロジェクト	2010年	2017年度末 ⇒2018年度末終了

\* フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト(2013年～)は、4-(5)国内ネットワーク構築事業「北陸学院 JICA 草の根技術協力事業」へ移行した。

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の2500世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は555世帯(2017年9月時点)。
実施内容	ぶどう畑再生支援事業  ●2018年度の計画 2003年、288世帯を対象にスタートしたコーポラティブシューラー(ぶどう協同組合)はこの14年間で550世帯(2018年度3月時点)に増加した。現地では、規模は小さいがマイクロクレジット方式で確実に組合に参加するぶどう農家が増加してきている。

	<p>2013年11月から販売を行っているこのミールバチャコット産の有機レーズンは、これまでに400kgを輸入してきた。2017年度は60kg(20kg×3回)を輸入し、販売した。</p> <p>また、2017年度12月より20g/150円で販売を開始したことで、イベントなどで気軽に購入してもらえるようになった。また、ケペスの岡本玲子さん(個人事業主としてフェアトレードのドライフルーツをネット販売している)が、定期的(毎月30p~50p)に購入してくれている。</p> <p>2018年度も引き続き、このミールバチャコット産の有機レーズンの日本での販売を行う。この支援プロジェクトを通じて、同地区を中心にぶどうの無農薬・有機栽培を浸透させる。そしてレーズンの販売を通して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまで支援して下さった方々に呼びかけると共に新たな支援者の拡大に努力する。</p> <p><b>【今年度の計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年とおりの80kg~100kgを目標に輸入、販売する。</li> <li>・月イチシリーズ「食と国際協力」や大学等の講義でアフガニスタンの状況を知ってもらう機会を継続的に行う。</li> <li>・有機レーズンの販売促進・・・100g/650円、20g/150円             <ul style="list-style-type: none"> <li>* イベント等での販売も継続(コープこうべ、ワンワールドフェスタ for Youth、ユニセフの集いなど)</li> <li>* 委託販売・・・ケペスでの委託販売も継続</li> <li>* ネット販売・・・2017年度より未来基金インターン生のアイデアで開始し、よりネット販売を促進する。</li> </ul> </li> <li>・第41回食と国際協力             <ul style="list-style-type: none"> <li>「9・11から16年 れーずんを食べながらアフガニスタンの(いま)を考える」</li> <li>日時: 2018年4月19日(木)18:30~</li> <li>場所: CODE 事務所</li> <li>講師: 村井雅清 CODE 理事</li> </ul> </li> </ul>
<p>事業の目標と終了予定時期</p>	<p>CODEの輸入するレーズンの総量を1tに定める。2017年度末時点での総輸入量460kgであるので、残り540kgを輸入するにはあと5年(年間目標100kgを輸入)が必要となる事から終了予定を2022年度末とする。ただし、2022年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。</p>

<p>事業名</p>	<p>1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト</p>
<p>実施日時</p>	<p>2008年5月13日~継続中</p>
<p>実施場所</p>	<p>四川省地震被災地域</p>
<p>受益対象者の範囲及び予定人数</p>	<p>四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民</p>
<p>実施内容</p>	<p>2018年で四川大地震から10周年を迎える。光明村で建設した老年活動センターの運営に関して、村民委員会の書記と村長が2017年に交代など要因により、運営や今後の展望などを新しい村長や香泉郷政府副郷長と協議をした。現在、香泉郷政府が光明村の観</p>

光開発(竹林や小川、交流広場建設など)を進めており、その動向に合わせてセンターを農家楽として活用していく方針であることを確認した。

また、この4年間、現地のNGO 備災センターと行ってきた日中NGO・ボランティア研修事業(2015年6名、2016年度6名、2017年度6名の若者と共に四川を訪問)が、中日減災・防災国際交流事業(2017年6月実施、中国の学校関係者やNGOスタッフを招へいし、神戸で防災教育に関する研修を行った。)などにつながった。また、2017年の日中NGO・ボランティア研修事業で訪問した際に、四川省防災減災教育館のスタッフや研究を対象とした日中での研修事業も現在、検討されている。

●2018年度の計画:

① 光明村老年活動センターの運営

現在、光明村の上部組織である香泉郷政府が、村周辺の観光開発を計画しており、これに伴って村民委員会と共に老年活動センターの「農家楽」を盛り上げていく予定である。具体的な観光開発には、センターの農家レストランとセンター前の釣堀の運営、村の南部にある洞窟、竹林、小川、交流広場などの整備などがすでに始まっている。これに合わせて村民委員会も営業許可の取得も進めていく。CODEとしてもこの動きを見ながら、日本の学生によって植樹された桜や未来基金の企画で行った日本食とのコラボ、精進料理、農家民泊などの現地住民の動きをサポートしていく。

② 現地NGOネットワークとの学び合い

2015年度、2016年度と将来のNGOを担う若者が現場で学ぶ機会を提供するために若者(2015年6名、2016年度6名、2017年度6名)と共に四川大地震の被災地を訪問し、被災者やNGO、ボランティアと「防災教育」などの交流をしてきた。また、2015年度には四川のNGOスタッフ3名を日本に招聘し、神戸、中越で学びの機会を得た。

この事業がきっかけで、2017年6月に四川省より教師、NGOなどからなる30名の訪問団がCODEとのコラボで来日し、神戸市で学校を訪問し、防災教育や安全管理などを学んだ。

今年度も2018年の四川地震10周年を視野にいれ、防災教育などを中心に若者と現地NGOとの学び合いを続け、その中から未来基金につながる若者も発掘していく。

●今年度(10周年)の予定

\* 四川地震10年のシンポジウムの共同開催(中国四川省)

四川地震から10年の節目である2018年に現地のNGOと協働で「防災教育」や「復興」をテーマにシンポジウムを開催する。四川のNGOの張国遠さん(NGO備災センター事務局長、四川省学校安全教育・管理研究センター実行主任)や高圭滋さん(四川尚明公益発展研究センター主任)、郭紅さん(四川省社会科学院)などと以下の通り開催する。日本側からは、CODE(吉椿)と大阪大学の渥美公秀教授やNPO北いわて未来ラボの神先真さんなどが参加した。

\* 今年度の主な動き

・「汶川(四川)地震10周年、芦山(雅安)地震5周年

	<p>被災地の再建と発展の学術シンポジウム(第2回学校減災教育シンポジウム)」</p> <p>日 時:2018年4月20日~21日</p> <p>場 所:四川省防災減災教育館(四川省成都市)</p> <p>主 催:四川省学校安全教育・管理研究センター、四川省防災減災教育館など</p> <p>共 催:CODE 海外災害援助市民センター、大阪大学、四川省心理学会、成都高新減災研究所、成都市上厚公益服務センターなど</p> <p>・四川地震10周年シンポジウムの開催(日本神戸市)</p> <p>四川地震に関わっている支援者や研究者と四川地震10年の学びや課題を議論する場をもつ。</p> <p>日 時:2018年7月頃</p> <p>場 所:神戸市内</p> <p>登壇者(予定):張国遠(NGO 備災センター)、プラスアーツ永田宏和さん、大阪大学渥美公秀さん、日中 NGO ボランティア研修交流事業や未来基金四川フィールド研修の参加学生など</p> <p>主 催:CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>・災害ボランティアと光明村の交流会の開催</p> <p>地震直後に光明村で活動した日本人、香港人、韓国人やSIM'sゲストハウスの植田麻紀さんなどのボランティアと光明村での交流会を実施する。</p> <p>・日中 NGO・ボランティア交流事業の実施</p> <p>これまでに本事業を4回実施した。若者が、実際にCODEの支援する被災地のフィールドを歩き、現地の人に触れ、考える事で若者に大きな経験と学びをもたらした。この事業をきっかけに神戸学院大学、関西学院大学や神戸大学の卒業生たちは、その後もCODEや未来基金のボランティアとして様々な協力をしていた。また、未来基金の第1号事業のフィリピンフィールド研修の申請者である神戸大学の学生もこの事業を機にCODEにかかわるようになった。</p> <p>今年度もこの事業を実施し、日本の若者の四川省での学びとCODEや未来基金にかかわる若者のきっかけづくりとする。そして日中のNGOで防災教育の学び合いを進めていく。</p> <p>* その他の動き</p> <p>5/7 神戸新聞四川地震10周年取材(吉椿)</p> <p>5/17 毎日新聞四川地震10周年取材(吉椿)</p> <p>6/7 産経新聞取材(吉椿)</p> <p>6/12 兵庫県立大学中国人留学生ヒアリング(吉椿)</p>
<p>事業の目標と終了予定時期</p>	<p>2018年度で四川大地震から10年も節目を迎える。2018年度を目途に光明村の農家楽を軌道に乗せ、現地のNGOと防災教育を通じた学び合いの場を積極的に作っていく。本事業は、今年度末で終了予定になっているが、現地のNGOとの防災教育の今後の展開によっては、事業を継続する可能性もある。その場合は、理事会の協議を経て決定する。</p>

事業名	1-(3) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	岩手県大槌、釜石などの被災者
実施内容	東日本大震災から7年を迎えた。今もなお約7万人の方々が仮設住宅などで避難生活を強いられている。引き続きCODEは、姉妹団体である被災地NGO協働センターの動きをサポートしつつ、提案があれば共に取り組む。2012年CODE10周年記念シンポジウムでアフガニスタン、ハイチ、四川の被災者やNGO関係者と東日本大震災の被災者との交流を行った事から、今後も海外の被災地と東日本大震災の被災地をつなぐ役割を模索していく。
事業の目標と終了予定時期	東北の復興状況は未だ困難な状況にあり、連携している被災地NGO協働センターも10年の支援を計画しており、CODEとしても10年は見守る必要があることから、終了予定を2020年度末とする。ただし、2020年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(4) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015年4月25日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族、ライ族のグデル村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者 約3500人
実施内容	<p>CODEは、地震後、耐震住宅再建プロジェクトを通じて現地の大工、石工の学びの場を提供してきた。また、その再建の中核を担った若き大工ニマ・シェルパさんを日本に招へいし、日本の伝統木造建築などを学んでいただく機会を提供してきた。また西宮の「夢広の会」の支援するパタンジェ村にニマ・シェルパさんら2名を派遣し、コミュニティセンターの建設における耐震技術の指導にあたった。</p> <p>現在、村の40～50%の住宅が、復興庁の住宅再建の第2次補助金(計3次まで)を待っている状態で、段階チェックをする復興庁のエンジニア不足によって中断状態にある。したがって、耐震技術を学んだ大工・石工たちの組合の組織化に向けた動きも見通せない状況である。</p> <p>現段階では、住民の優先課題が収入向上にある。グデル村シャーレ地区の住民コミュニティである「シェルパ村落開発改善委員会」は、住民がその地域で住み続けるために、収入向上などの計画を立てている。それを支える同コミュニティと共に収入向上に向けた取り組みを模索していく。</p> <p>●2018年度の計画 *耐震住宅再建プロジェクト</p>

	<p>2015年末よりグデル村での耐震住宅再建プロジェクトが本格始動し、2016年夏にはモデルハウスが完成し、そこで耐震の技術を学んだ被災村の大工・石工たちが26軒の一般住宅の再建を行った。住宅再建の中核を担った若い大工のニマ・シェルパさんを2016年10月に日本に招聘し、日本の伝統木造建築を学んでもらった。今後もニマさんの動向を見守る。</p> <p><b>* 農作物を使った収入向上プロジェクト</b></p> <p>シェルパ村落開発改善委員会は、グデル村のシャーレ地区(ワード 4、5)の住民組織で、これまでのプロジェクトのカウンターパートであったグデルシェルパコミュニティの下部組織である。シャーレ地区のリーダー、ニマサンゲさん、ニマさん(大工のニマさんの伯父)を中心に、現地の資源を活用した農業商品を生み出すことで現地住民の収入を向上させる計画を立てている。</p> <p>現地住民のほとんどは、自給のための農作物を生産しているが、加工品にすることができずに多くの作物を放置、腐敗させてしまう。そこで上記委員会は、その作物をヌードルなどにして他のバザールで販売する、そして委員会が住民から農作物を買い取り、他の地域で販売することで収入向上につなげることを考えている。すでに将来の換金作物生産に向けて、リンゴやキウイなどの果物の試作も始めている。現地からのプロポーザルでは、麦やそばを使ったヌードルを生産するための工場と食料雑貨の商店の建設が挙げられている。</p> <p>以上のような現地からのプロポーザルを踏まえて、まずは綿密な現地調査(作物の状況や加工品の可能性、ネパールの協同組合など)を行い、コープさんのご協力をいただきながら協同組合の考え方の導入なども考える。また必要があれば村のリーダーたちを日本に招聘し、研修なども検討する。</p> <p><b>* 主な動き</b></p> <p>6/8 いわきおてんと SUN 企業組合島村さん来所(村井理事、吉椿、上野)</p> <p>7/2 チームひょうご「ネパール地震被災地支援のこれからを考える会」に参加(吉椿)</p> <p>チームひょうご「第6回ネパール地震被災地支援報告会」で報告(吉椿)</p> <p style="text-align: right;">* 4-(6)と重掲</p> <p>その他、モンベルなどとのコラボで報告会を開催する。</p>
<p>事業の目標と終了予定時期</p>	<p>辺境のグデル村から発信していく耐震住宅建設の知恵と技術を普及すると同時に村民の生活向上を図る。</p> <p>事業終了予定は、2020年度末。ただし、2020年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。</p>

●今年度終了予定プロジェクト

事業名	1-(5) ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010年1月13日～
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範	レオガン周辺住民

圏及び予定人数	
実施内容	<p>・レオガン農業技術学校(ETAL)建設プロジェクトについて</p> <p>2016年5月にCODEの建設したレオガン農業技術学校(ETAL)が完成し、第1期生として2016年度は、17名の学生が入学し、農業を学んだ。2017年度の2期生は若干名が入学したという情報あり、現在関係者などに連絡をとっているが、詳細は不明である。</p> <p>2016年度から政情不安による治安の悪化、ジカ熱などの影響で現地訪問を延期せざるを得ない状況が続いてきたが、2017年度も災害看護支援機構(DNSO)との日程が調整できず、2018年度に持ち越されることとなった。今年度、DNSOの方(小原理事長、他1名)と現地を訪問してモニタリングを行い、農業技術学校の運営状況やDNSOが備品提供をした結核病棟の状況を確認する。</p>
事業の目標と終了予定時期	今年度の現地訪問で ETAL の状況を確認し、このモニタリングをもって本事業を終了とする。

事業名	1-(6) 中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日～
実施場所	中国青海省玉樹県、称多県などの被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省称多県拉布郷の約3000人
実施内容	<p>・ヤク銀行プロジェクト</p> <p>2010年の地震後、CODEは、インドネシア人アーティスト、イアニさんをカウンターパートに拉布郷拉司通村でヤク銀行委員会を設立し、「ヤク銀行」プロジェクトを行ってきた。2013年度に提供された37頭のヤクは2017年末時点で56頭まで増えた。その後、地元政府によってこのプロジェクトが引き継がれ、200頭のヤクを追加して3地区に再分配し、実施されることとなった。2017年度、イアニさんが現地を訪問しなかったことからヤク銀行プロジェクトのその後の動向をうかがい知ることができなかった。今年度はイアニさんの視察をうながし、最終モニタリングを行ってもらい、現地の状況確認ができ次第、本事業を終了とする。</p>
事業の目標と終了予定時期	現地のヤク銀行委員会と地元政府と今後のヤク銀行の動向を協議し、その後の運営をヤク銀行委員会に託す。よって2018年度をもって本事業を終了とする。

## 【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	事務局は、現在2名(村井理事、細川さんを含めると4名)であるが、2017年度は、後期よりCODE 未来基金のインターン、高橋大希さん(愛媛大学3年生)に半年来ていただ

	<p>き、SNS を活用してイベントや未来基金のサポートをしていただいた。若者の発想で事務局や未来基金に新たな風をもたらしてくれた。また、2018年3月よりアルバイト1名(屋久島おおぞら高校神戸校3年生)や神港橋高校3年生が、通年型インターンシップで週1回来て、事務局業務を担って頂いている。</p> <p>2018年度は、上野が未来基金に専念できるよう、未来基金に関わる学生たちにアルバイトやボランティアとして事務局を逐次フォローしていただく。</p>
--	---

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>今年度も「NGO の根幹」について若者に伝えることに重きを置くことから、村井理事の「NGO とは？」シリーズとして阪神・淡路大震災から 23 年を振り返り、その経験や知識を若者に伝えていただく。今年度は、榛木理事に NGO 入門編として NGO の基礎知識を、村井理事に応用編として、現場での実践をお話していただく。</p> <p>2018 年度より 7 月頃より開始予定。</p>

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	<p>月1回行っている「食と国際協力」やイベントでのブース出展を通じてボランティアや外部の人が集う場を今年度も継続していく。また、未来基金に参加した若者や関心を持っている若者が CODE にかかわる場を今後も積極的に作っていく。</p>

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014年3月よりスタートした「食と国際協力」は、毎月、第3木曜日に開催しており、41回(2018年度4月19日アフガニスタン)を数える。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知ることで身近に感じてもらい、災害が発生した場合はともに協力し合うことがこの企画のねらいである。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にも気軽にご参加いただき、CODE を知ってもらう機会に</p>



	<p>すると同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者を発掘していく。</p> <p>* 今年度の開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 41 回 「9・11 から 16 年 れーずんを食べながらアフガニスタンの(いま)を考える」 (CODE 理事 村井雅清) (2018 年 4 月 19 日) *1-(1)と重掲</li> <li>・第 42 回 「ネパールのハニーハンター 大地に樹を植え、心に花を咲かせる」 (草木のはちみつ 米川安寿さん) (2018 年 5 月 17 日)</li> <li>・第 43 回 「台湾集集地震の被災地から(仮)」 (兵庫県立大学 澤田雅浩さん、宮本匠さん、 被災地 NGO 協働センター 頼政良太さん) (2018 年 6 月 21 日)</li> <li>・第 44 回 「フィリピンの漁村で暮らして(仮)」 (甲南女子大学 瀬木志央さん) (2018 年 7 月 19 日)</li> </ul> <p>その他、イラン、モンゴル、チベットなどを計画中。</p>
--	--

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	<p>「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>現在、英語の翻訳ボランティアは 1 名の方にご協力いただいているが、現状としては HP の更新など追いついていない。今年度は未来基金に関わる若者にも翻訳ボランティアとしてかかわっていただき、HP.FB での情報発信を充実させる。</p>

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 40 名
実施内容	<p>① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣</p> <p>CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、11 年目となる本年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱの講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。受講人数は約 40 名。(全 15 コマ)</p>

	<p>《内容》</p> <p>9/18(火) 第1回 ガイダンス(村井理事)</p> <p>9/25(火) 第2回 ボランティアの起源と意義(村井理事)</p> <p>10/2(火) 第3回 平成時代に刻まれた「ボランティア元年とは？」(村井理事)</p> <p>10/9(火) 第4回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事)</p> <p>10/16(火) 第5回 CODE 海外災害援助市民センターの活動について (吉椿、上野)</p> <p>10/23(火) 第6回 もう一つの生き方、もう一つの働き方(村井理事)</p> <p>10/30(火) 第7回 異文化理解と援助(吉椿)</p> <p>11/6(火) 第8回 援助の届き難い被災地支援の方策(吉椿)</p> <p>11/13(火) 第9回 農業支援を通して支援の思想を築く(村井理事)</p> <p>11/20(火) 第10回 災害とジェンダー(齊藤容子さん)</p> <p>11/27(火) 第11回 保護とエンパワーメント(村井理事)</p> <p>12/4(火) 第12回 災害時における地域力と備えの大切さについて(村井理事)</p> <p>12/11(火) 第13回 災害と貧困(吉椿)</p> <p>12/18(火) 第14回 被災者主体と補完性の原理について(村井理事)</p> <p>1/8(木) 第15回 課題と展望(村井理事)</p> <p>その他の授業</p> <p>4/16(月) 神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅳ」で講義(吉椿)</p> <p>6/2(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)</p> <p>6/9(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ</p> <p>例年同様に9月中旬頃インターン学生2~3名を受け入れる。</p>
--	--

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》神戸女子大学
実施日時	5月から7月までの前期、毎週金曜日第2限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生20名
実施内容	<p>3年目となる神戸女子大学神戸国際教養学科の授業を村井理事が講師を担っている。今年度も引き続き以下のような内容で授業を行う。(全9コマ)</p> <p>5/18(金) ボランティアの歴史 ~「セツルメント運動」から災害救援へ~</p> <p>5/25(金) CODE 海外災害援助市民センターの活動について ~困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う~</p> <p>6/1(金) 災害と貧困 ~貧困脱出と災害復興との関係~</p> <p>6/9(金) 異文化理解と支援 ~宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する~</p> <p>6/15(金) 新たなチャンレンジ ~ネパール地震支援プロジェクトから学ぶ~</p>

6/22(金)	女性の生活向上支援と自立	～教育のもたらす意義～
6/29(金)	長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン	～人為災害と自然災害と戦う人々～
7/6(金)	紛争後の支援から13年、アフガニスタンの今	～平和構築への課題～
7/13(金)	保護とエンパワーメント	

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣 前年度と同様、派遣依頼があれば行う。 * 今年度の予定 ・神戸女学院大学 文学部総合文化学科「ボランティア論Ⅰ」や龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p> <p>② 関西 NGO 協議会提言専門委員会に委員として村井理事が出席していたが、2016年度より休会している。</p> <p>③ その他、その都度必要に応じて対応する。</p>

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 復興・被災者支援制度の国際調査事業
実施日時	2018年4月1日～2010年3月31日
実施場所	関西学院大学災害復興制度研究所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	関西学院大学研究推進社会連携機構・災害復興制度研究所からの委託事業「復興・被災者支援制度の国際調査事業」に CODE から齊藤容子を出向させる。海外の災害復興制度を調査研究することで、日本の災害復興制度に寄与するもので、任期は1年ごとの更新で、最大2年間。

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定

実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>2017年度より CODE は団体理事として吉椿が理事会(2ヶ月に1回)に出席している。これまで提言専門委員として村井理事が名を連ねていたが、2016年度からは十分な委員を確保できないことから休会となっている。今年度も委員会の状況を見ながら、参加の有無を判断する。</p> <p>その他、今年度も関西地域 NGO 助成プログラム説明会、NGO スタディツアー合同説明会、関西 CS ネットワークフォーラム、セーフトラベルセミナーなどに参加する。また、2017年度に設立された関西 SDG`s プラットフォーム(事務局:JICA 関西、近畿経済産業局、関西広域連合)にも市民社会から関西 NGO 協議会として参画していく。</p> <p><b>* 今年度の予定</b></p> <p>5/19 第 17 回定期総会・第 1 回理事会に出席(吉椿)        関西市民による SDGs アクションプランを考える会に出席(吉椿)</p> <p>6/11 「関西市民による SDGs アクションプランを考える会」全体会に出席(吉椿)</p> <p>6/20 第 2 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>7/7.8 「関西市民による SDGs アクションプランを考える会」学習会に出席(吉椿)</p> <p>12 月 ワンワールドフェスタ for YOUTH でワークショップ、ブース出展(吉椿、上野)</p> <p>② コープこうべとの連携</p> <p>コープこうべが実施している地区の勉強会、報告会への講師派遣を引き続き行う。また、これまでコープこうべにご支援をいただいた四川やフィリピン、ネパールなどの被災地を訪問していただく企画なども検討する。そして未来基金に関わった若者とコープの組合員やハート基金をつなぐ多世代交流の場を計画する。</p> <p><b>* 今年度の予定</b></p> <p>5/15 中川さん、八木さんとハート基金運営員会での報告の打合せ(吉椿)</p> <p>6/23 コープこうべ第 98 期通常総代会に出席(芹田代表理事)</p> <p>6/29 ハート基金で CODE や未来基金についての説明を行う。(吉椿、上野)</p> <p>・その他、コープこうべ第 3 地区福祉サークルリーダー連絡会での講演(吉椿)        平和の集いやユニセフの集いでレーズンを販売(上野)</p> <p>③ 近畿ろうきん</p> <p>2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」(預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ)の寄付先団体にご指名いただいた。これにより年間約 30 万円の寄付を得ることができる。寄付だけでなく、近畿ろうきんや生協での活動報告や講演など CODE を知ってもらう場を持たせてもらうことで CODE や未来基金の周知に努力する。</p> <p><b>* 今年度の予定</b></p> <p>5/11 兵庫地区営業会議(店長など 17 名)での活動報告(吉椿)</p>
------	--

- 6/14 兵庫地区推進会議(会員労組など 18名)での活動報告(吉椿)
- 6/15 兵庫地区運営委員会(会員労組など 28名)での活動報告(吉椿)

④ 北陸学院大学(JICA 草の根技術協力事業)

\* 海外の災害地の救援事業のフィリピン台風救援から、本項目へ移行した。

2013年の台風 Haiyan 後、CODE はセブ島、バンタヤン島で漁業支援プロジェクトを実施し、モーター付きボートや漁網を6つのバランガイ(最小行政単位)で提供した。その後、第2段として、2016年から3年間、北陸学院大学の田中純一教授の主導で「JICA 草の根技術協力事業(新・草の根協力支援型)」として CODE と共にセブ島、バンタヤン島で実施している。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出する。また、被災漁村の防災リーダーの育成とコミュニティ防災の向上をめざす。

2017年度はバンタヤン島で出会った甲南女子大学の瀬木志央先生(文化人類学)によるフィリピンの漁村の暮らしについての勉強会を開催した。(参加者9人)  
また、兵庫県立大学大学院生の立部知保里さんのフィールド調査とも情報交換やモニタリングなどで連携していく。今年度も上記のような関係者での勉強会、情報交換会などを開催する。

\* 今年度の予定

- 5/22 北陸学院大学 田中教授と打合せ(斉藤さん、吉椿)
- 6/4 兵庫県立大学 立部さんへのヒアリング(吉椿)
- 6月末 or 7月初 田中准教授とフィリピンへ専門家派遣(吉椿)
- 7/19 第44回食と国際協力「フィリピンの漁村で暮らして(仮)」 \*2-(4)と重掲  
(甲南女子大学 瀬木志央さん)

⑤ チームひょうご

兵庫県立大学を中心にネパール地震支援を行うNGO、研究機関の情報交換の場として CODE も参画する。年2回程度の報告会を開催する予定。

\* 今年度の予定

- 7/2 チームひょうご「ネパール地震被災地支援のこれからを考える会」  
に参加(吉椿)
- チームひょうご「第6回ネパール地震被災地支援報告会」で報告(吉椿)  
\*1-(4)と重掲

④ 若者の団体とのネットワーク

災害時などに CODE と連携していただく若者の団体(ワカモノデカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと、神戸大学学生救援隊、NPO

	<p>しゃらく、大学コンソーシアムなど)との関係をより深めていく。また未来基金を通じて若者どうしのネットワークも充実させていく。</p> <p>* 今年度の予定          6/11 アイセック送り出し事業局 海外インターン生の面談(吉椿)          その他、NPO しゃらくや神戸ソーシャルキャンパスや・NPOまなびととのコラボ企画を未来基金に関わるプロジェクトで連携していく。</p> <p>⑤ Tell-Net          「2020年世界災害語り継ぎフォーラム」を阪神・淡路大震災から25年後の2020年1月に神戸で開催することになった。</p> <p>* 第1回準備委員会          日時:2018年6月21日 17:30～          場所:人と防災未来センター          参加予定者:深澤良信、天川佳美、小林郁雄、林勲男、永松伸吾、牧紀男、船木伸江、水本有香、リズ・マリ、渡辺祥弘、澤田雅浩、村田昌彦、阪本真由美、白石秀俊、吉椿雅道</p> <p>⑥ その他、JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p> <p>5/31 JICA 国際協力連続セミナー「SDGs とアジアの人権に参加(吉椿)          (講師:JANIC 事務局長 若林秀樹)」</p> <p>6/9 JICA 東京主催「SDGs をチャンスに変える」実践研修に参加(上野、吉椿)</p>
--	---

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① フィリピン台風災害(2013年)の被災地、セブ島で活動するNGO ネットワーク、ABAG CENTRAL VISAYAS との連携を JICA 草の根技術協力事業を通じて深めていく。</p> <p>② 2015年から実施している「日中 NGO・ボランティア研修交流事業」をきっかけに四川のNGO 備災センター(社会的企業(上厚公益サービスセンター))や四川尚明公益発展研究センターとの関係を深めてきており、今後、両国の災害救援や防災教育などで連携していく。</p>

	<p><b>* 今年度の予定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「汶川(四川)地震 10 周年、芦山(雅安)地震 5 周年 * 1-(2)と重掲 被災地の再建と発展の学術シンポジウム(第 2 回学校減災教育シンポジウム)」</li> <li>日時: 2018 年 4 月 20 日~21 日</li> <li>場所: 四川省防災減災教育館(四川省成都市)</li> <li>主催: 四川省学校安全教育・管理研究センター、四川省防災減災教育館など</li> <li>共催: CODE 海外災害援助市民センター、大阪大学、四川省心理学会、成都高新減災研究所、成都市上厚公益服務センターなど</li> </ul> <p>・その他、NGO 備災センターを通じて、「四川省防災減災教育館」と「人と防災未来センター」のネットワーク構築のサポートなどを計画</p> <p>③ ネパール地震救援プロジェクトを通じて出会ったグデルシェルパコミュニティやシャーレ集落の住民で作る「シェルパ村落開発改善委員会」や夢広の会パタンジェなどとの連携を深め、ネパールの耐震技術の普及や生活向上をめざしていく。</p>
--	--

**【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】**

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>① CODE 理事による寺子屋(3 回)</p> <p>昨年度に引き続き、CODE 理事 3 名(芹田代表、室崎副代表、松本理事)による寺子屋を開催する。テーマ「NGO の根幹を若者に！」(仮)を次世代に伝えていただく。</p> <p>② 2014 年度の室崎副代表理事の寺子屋 4 回シリーズ「①阪神・淡路大震災 ②国内の復興事例 ③海外の復興事例 ④東日本大震災」の講義録を小冊子にする事ができた。すでに 52 冊を実費 500 円で頒布した。今年度も引き続き、関係者、機関に積極的に頒布していく。</p>

**【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】**

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	現時点(2018 年 3 月 15 日現在)での会員の状況:

	<p>正会員 :24(団体3、個人21)</p> <p>賛助会員:101(団体3、個人98) 計:125名・団体</p> <p>(*2015年度は120名・団体、2016年度は、147名・団体)</p> <p>2015年度から2016年度は、ネパール地震やNHKの番組の影響で新規の会員、寄付者が一時的に大幅に増えた。だが、新規の会員や継続の会員フォローアップが十分でなかったため(現在、精査中)に賛助会員が減少している。今年度は、会員の増減の動向を分析し、継続して会員になっていただくよう丁寧なフォローを行う。</p> <p><b>*今年度の計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットのカラー刷新 昨年度実施できなかったリーフレットのカラー化をはかる。</li> <li>・CODEレター発行など紙ベースの従来のものに合わせて、フェイスブックなどのSNSを積極的に活用。</li> <li>・近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」 今年度より実施する近畿ろうきんの同事業を活用し、CODEや未来基金の活動を広める。</li> <li>・未来基金 フィールド研修の報告会、サポーターミーティングなどの場を通じてCODEの活動を知っていただく機会をつくる。</li> <li>・今年度も「ソーシャルアクションリング」のバナー広告を継続する。 (年15000円の広告収入)</li> <li>・寄付サイト gooddo のワンクリック募金(年約20,000円)が2018年2月で終了したことから、新規に同様な寄付サイトの活用を模索していく。</li> <li>・Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みを2017年度から取り入れている。</li> </ul>
--	--

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会、講義の予定</p> <p>2018年2月にモンベルで開催したネパール地震報告会(参加者約32名)が好評であったことから、2018年度もモンベルとのネットワークを活用し、今後も報告会などを企画する。</p> <p>また、未来基金の若者を通じて中国四川、フィリピン、ネパールなどのプロジェクトの報告会を開催する機会を持つ。2018年3月に日中NGOボランティア研修交流事業で訪問した学生が神戸女子大学で報告会を現在、企画中。</p> <p>また、今年は四川地震から10年の節目の年でもあるので、プラスアーツや大阪大学などの関係機関と連携して報告会、シンポジウムを開催する。 *1-(2)と重掲</p>



## ② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。

4/16	神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅳ」で講義(吉椿)	* 4-(1)と重掲
5/11	近畿ろうきん兵庫地区営業会議での活動報告(吉椿)	* 4-(5)と重掲
5/18	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
5/25	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
6/1	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
6/2	神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)	* 4-(1)と重掲
6/8	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
6/9	神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)	* 4-(1)と重掲
6/14	近畿ろうきん兵庫地区推進会議での活動報告(吉椿)	* 4-(5)と重掲
6/15	近畿ろうきん兵庫地区運営委員会での活動報告(吉椿)	* 4-(5)と重掲
	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
6/17	関西国際大学「防災とフィールド授業」で講義(吉椿)	
6/22	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
6/29	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
7/2	チームひょうご「第6回ネパール地震被災地支援報告会」で報告(吉椿)	* 1-(4)と重掲
7/6	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
7/7	兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)	
7/13	神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事)	* 4-(2)と重掲
8/7	神戸大学教養言論「阪神・淡路大震災 B」で講義(吉椿)	
9/18	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
9/19	たつの揖保川ボランティア交流会「防災学習会」で講演(吉椿)	
9/25	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
10/2	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
10/9	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
10/16	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿、上野)	* 4-(1)と重掲
10/23	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
10/30	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)	* 4-(1)と重掲
11/6	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)	* 4-(1)と重掲
11/13	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
11/17	大阪大学公開講座で講義(吉椿)	
11/20	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(齊藤容子)	* 4-(1)と重掲
11/27	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
12/4	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
12/11	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)	* 4-(1)と重掲
12/18	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	* 4-(1)と重掲
2019年		
1月	龍谷大学国際特別講義「国際NGO論」で講義(吉椿)	* 4-(3)と重掲
1月	神戸工科高校で講義(上野)	

	1/8 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	*4-(1)と重掲
	* その他:(日程は未明だが、依頼のあったもの)	
	・舞子高校環境防災科で講義(吉椿)	
	・甲南女子大学で講義(吉椿)	
	・大阪大学で講義(吉椿)	

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は年3回発行、各回約1000通を発送。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌:4月、7月(総会報告のため)、12月(年末寄付募集のため)に発行予定。 ・メーリングリスト:逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、FACEBOOK:逐次発信 ・ホームページ:2014年ボランティアさんの協力でリニューアルを行った。英語版もボランティアさんによって逐次、翻訳していただいている。 ・2017年度から未来基金インターン生によって、レーズンやホストカードのネット販売が開始された。

## 【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	芹田代表を中心に認定NPO法人取得などCODE AIDの具体化に向けて取り組む。 認定NPO法人取得に関しては、現在、芹田代表が国際協力交流センター(神戸市)などに問い合わせを行っている。

事業名	7-(2) CODE 未来基金
実施日時	2015年4月1日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害NGOで働く若者、または将来的に災害NGOで働く事を目指す若者、若干名。

実施内容	<p>●現状</p> <p>未来基金では、フィールド研修でこれまでにフィリピン、ネパール、四川で若者が現場で学ぶ機会を提供してきた。また、未来基金に関心を持つ若者やサポーターも徐々に増えつつある。だが、他方で、CODE レターや SNS を使って「未来基金」の発信を行っているが、下記のように寄付者・サポーターは決して多くはない上、継続する人が減っているのが現状である。CODE 未来基金がまだまだ認知されていない状況にある。</p> <p>2018 年度もすでに前期のフィールド研修の選考が行われ、合格した高校生が初めて未来基金のフィールド研修でフィリピンを訪れる。この若者たちの現地での活動やそれを通じた成長を社会にアピールし、未来基金を盛り上げていく。</p> <p>またサポーターミーティングや報告会などで関心をもってくれる人たちも少しずつではあるが、増えてきている。</p> <p>* 未来基金の新年度計画は別紙参照。</p> <p>* 今年度の動き:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・4月5日 2018年度前期 CODE 未来基金選考委員会</li><li>・6月中旬～8月 2018年度後期プログラム募集</li><li>・7月 第3回 CODE 未来基金サポーターミーティング</li><li>・9月 フィリピンフィールドワーク</li><li>・9月 2018年度前期 CODE 未来基金報告会</li><li>・12月～2月 2019年度前期プログラム募集</li><li>・2月 第4回 CODE 未来基金サポーターミーティング</li><li>・3月 2018年度後期 CODE 未来基金報告会</li></ul> <p>その他、CODE 未来基金参加者同窓会、盛り上げよう会などもその都度企画する。</p>
------	---